
イエス！オッサン！！～オッサン・ジジイへの妄想が止まらない

リン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イエス！オッサン！〜オッサン・ジジイへの妄想が止まらない

【Nコード】

N1761Z

【作者名】

リン

【あらすじ】

「むかしむかしあるところにね」様、執筆予定 「イエス！オッサン！！（仮）」の二次創作です。

原作はオッサンラブな人向けコメディ。オッサン企画主犯は「むかしむかしあるところにね」様作品。こちらの2次創作ではコメディ、陰謀劇、オヤジとジジイのいい感じなシリアス話など。共犯の「リン」によるつっぱしり妄想です。本編 蔵。『 <http://ncode.syosetu.com/n3442y/> 』今後随

時、加筆修正していきます

妄想キャラ

蔵「むかしむかしあるところにね」様、執筆予定の二次創作です
とりあえず、この世界観の中で新しいキャラを作って色々妄想して
みました

ちよい悪軍医

これ妄想發揮後、後から軍医設定追加されてるの気がついたorz。
「フサフサの会」名誉顧問の爺さん。素晴らしすぎる設定

二次創作という事で妄想の中の別軍医ということで許してください。
ぷりーず

爺さん軍医の下で働く、ろくでもない部下軍医という事で

もちろんおっさん。ちよい悪親父

酒好き。仕事にも酒飲んでる。むしろ酔っていると名医で素面の方
がヤブな医者。

消毒は酒を口から吹く

豪快な性格でバカやつてる兵士達を大笑いしながら飲んだくれてる

たぶん中央軍の兵士達のダイエットブートキャンプも宴会芸みたい
に楽しんでみてる

「もつと、やれやれ！おまえたち気合いれろ」

と適当にヤジ入れてはやし立てる

でも、おバカ兵士達には混ざらない傍観者

意外と大人で、主人公が悩んでると相談にのってくれたりする

『ちよい悪軍医と將軍の保健体育』

中身JKだから、男の体のメカニズムとかわからず、軍医に相談に

いくとか

「先生！なんで朝おつきくなってるの？」

「朝立ちだな」

「みたいな？」

ああ、でもこうやって解決しちゃうと、事件がおきなくなっちゃうなあ

時々、嘘を教えて主人公を振り回そうかな

三下悪役トリオ

黒幕ジジイの手下貴族か、第二王子の親衛隊にでもいたらいいな

元帥派：元帥、副官、将軍など、国軍の人間

悪役A……熱いバカ。三人の中で真ん中の年齢。リーダー。一人称「俺」

貴族万歳！虎の威を借る狐。元帥派を熱く目の敵にしているが、熱さが空回りしてドジを踏む

悪役B……抜けたバカ。一番若い、苦労知らずのおぼっちゃま。一人称「僕」

うっかり重要な事しゃべっちゃう。乗せられて敵（元帥派）に協力しちゃう。後から騙された事に気付いて怒る

悪役C……苦労性なバカ。一番年上、禿げでデブなおっさん。一人称「私」

年上なのに一番格下なのはたぶん貴族の身分が底辺。上記の二人のフォロワー役な苦労性。でも一人じゃなにもできないので、いつも二人にくっついてる。主義主張もなく元帥を目の敵にしている（他の貴族が元帥悪と言ってるから）

一人称かえれば、三バカ会話劇成り立つよね？

『三バカトリオの今日の悪だくみ』

A「おのれ！元帥許せん！今日こそは地獄に叩き落してくれろ！」

C「しかし相手は狡猾な狐。そう簡単には……」

A「いつその事元帥を俺のこの手でやつぎきに！」

B「それいいですね。僕、人に剣で切りつけた事ないんですよ。やってみたいな」

A「では、いくぞー！」

C「ちよつと、待ってください！私もいきます」

元帥の部屋近く。しかし道に迷う3バカ。通りかかった副官に道を尋ねる

C「すいません。元帥の部屋はどこでしょうか？」

副官「元帥に何のごようですか？」

B「元帥を暗殺に……」

Bの口を手でふさぐC、しかし時すでに遅し副官の目が輝いている

副官「あちらですよ」

元帥室とはまったく関係ない場所を指し示す

A「元帥め！待ってるよ！」

すぐに駆けだすA、慌ててついてくBとC

副官「というわけでA、B、Cが元帥の命を狙ってます」

元帥「報告を受けるまでもない。そんなバカ適当にあしらってけ」

ちよい悪軍医 1

ちよい悪軍医

兵站部隊長と元帥は年齢同じぐらいで盟友で親友だが、ちよい悪軍医は元帥達よりちよつと下で將軍より上。40前後？

元帥が過激に突っ走り、ちよい悪軍医はめんどくさそうに（でも以外とノリノリ？むしろ国軍を変えてくれる面白い人と悪乗り）従う兵站部隊長は、なぜ元帥を止めない！と怒りながら二人のブレーキと後始末役

子飼いの医者がいた方が便利という理由で、元帥に色々面倒押しつけられてる

その代り規律違反（主に任務中の飲酒）を見逃してもらってる
普段から飲んだくれながら仕事してる

周りからも大丈夫か？この人と思われている。でもそれも油断さそう作戦

っていうか、飲んででもなきややってられつか、あんな爺の下で

兵士の治療全部俺に丸投げで、研究に没頭

しかも増毛薬なんぞ、くその役にもたたない薬のために……

と上司への不満がたまってるが、本気の爺軍医の実力にはかなわないので、渋々従ってる

絶対医療技術や新薬の秘密盗んでやる、どうせ爺だそのうちぼっくり死ぬ

きつと中央軍の兵士は怪我しても、爺さん軍医に「つばつけときゃ治る」とろくに治療してもらえないか、飲んだくれのヤブっばいちよい悪軍医に治療してもらうか究極の選択になる

だから医療班を当てにしてない。本気で怪我しないように、猛烈な

訓練をしてるのかも

元帥と兵站部隊長と爺軍医にはかなわない、まだまだ悪ガキなちょい悪軍医。でも若い兵士達よりは人生経験豊富だから、いつも大人の余裕で若いやつらに色々教えてやったりしてる。しかし兵站部隊長と違って、いいかげんで半分ぐらい嘘とからかいが混じってるから、みんな相談したからない

將軍はからかう絶好のカモ

無知なバカにつけこんで余計な事ばかり教えてる

『ちょい悪軍医と兵站部隊長と元帥と』

医務室で飲んだくれてるちょい悪軍医。やってきた兵站部隊長はいつものように眉をひそめる

7

兵站部隊長「勤務中に飲酒はいけませんよ」

ちょい悪軍医「けつ。俺は飲めば名医、飲まなきゃヤブ。怪我人増やしてもいいのかよ」

ここまではいつもの挨拶。ちょい悪軍医は飲むのやめないし、兵站部隊長も酒をとりあげるのはあきらめてる。でもいちよう常識人なので毎回ちゃんと注意はする

兵站部隊長「それで、例の兵士はどうなりましたか」

ちょい悪軍医「ひでーもんだが、まあ命は助かりそう。事情聴取は当分無理そうだがな」

兵站部隊長「元帥もまたむごい事しますね」

ちよい悪軍医「元帥の護衛が任務の兵士。元帥のために体張って名誉の負傷って事だろ。表向きは」

兵站部隊長「『名誉の負傷』と言えば聞こえはいいですが、暗殺者の攻撃から文字通り『人間の盾』に使ったんですよ」

ちよい悪軍医「うーん、でも確か、あの懐古主義爺さん貴族側のスパイだったんだろ。元帥知って泳がしてて、いざって時の盾要員……予定どおりじゃないか？」

兵站部隊長「予定通りじゃないですよ。もう少し泳がせて相手側の情報をしぼりとろうと思ってたのに」

ちよい悪軍医「でも元帥言ってたぜ『思ってたより使えねー。こりゃ捨て駒だな』って」

兵站部隊長「本当に君も元帥も人の命を駒みたいに扱って……といつか、元帥をとめなさい。君は医者のはしくれだろう」

ちよい悪軍医「あの元帥を俺が止められるわけないだろう。そういう役目はあんだのはずだ」

一瞬睨みあう二人。諦めたようにため息をつく站部隊長。にやっと笑うちよい悪軍医

兵站部隊長「仕方ありませんね。これから一つ元帥を説教にいきますか」

ちよい悪軍医「ああそうしてくれ。ついでにもう一つ説教しといてくれ『無理するな、死ぬぞ』って」

兵站部隊長「何があつたんですか？」

ちよい悪軍医「暗殺者の襲撃の盾に兵士使ったが、元帥も無傷じゃなかった。しかもまわりに隠して涼しい顔で激務こなしてるし。こ

のままじゃ傷口ぱっくりいくぜ」

兵站部隊長「……本当にあの人は意地っ張りですね。私にまでそんな傷を隠すとは」

ちよい悪軍医「情報提供料に酒くれ。安いのでもいいから」

兵站部隊長「これでも食べてなさい」

チヨコレートボンボンを差し出す兵站部隊長

ちよい悪軍医「ガキの食いもんじゃねえか」

兵站部隊長「私のおやつですよ。貴重な他国土産です。それに私達からみれば、君なんてまだまだ子供に毛が生えたものですよ」

ちよい悪軍医「けつ。いい年したオヤジ捕まえて子供あつかいかよ。

これだからジジイどもは……」

そう言いながらチヨコレートボンボンを食べるちよい悪軍医

なんか本編のコメディタッチの話とは毛色が違うけど
まあ二次創作だからというわけで許してください

ちよい悪軍医2

ちよい悪軍医にとりあえず名前つけてみた

命名「ハサン」で！……理由はなんとなく
自分のネーミングセンスのなさにorz

ハサンと軍医のやり取りでひとつお話作りました

飲んだくれて日が高くなっても高いびきで寝てるハサン。そこへ兵士が駆け込んでくる

兵士「ハサン先生！起きてください。大変です」

ハサン「なんだ？いい気分で寝てたのに…」

兵士「見てください。この患者の山を」

見渡せば死屍累々な感じで倒れてる兵士達。

ハサン「何があつた！敵襲か？」

兵士「集団食中毒です」

ハサン「何食べたんだ？」

兵士「何でしょう？色々入れたからなあ…」

ハサン「なんだそりゃ？」

聞けば將軍の新スイーツに対抗して、女の子にもてたい野郎共が

慣れないお菓子作りを慣行。とりあえず近くにあるものを手当たり次第に砂糖で煮詰めて試食。さながら黒魔術大会のようになっただしい。

製作者たちも何を入れたか覚えてない、適当にその辺の雑草とか入れたかも。

ハサン「バカ野郎！雑草でも毒性強い物もあるんだぞ。毒が特定できなきゃ治療も難しいぞ」

とりあえず生ける屍とかしてる兵士達を見て回って、重症度を認めるハサン。

ハサン「おい！手が足りねえ。ジジイ呼んでこい」

兵士「それが…新薬の研究中で忙しいと断られて…」

ハサンの血管が何本か切れる音を兵士は聞いた。次の瞬間には隣の研究室の扉を、ハサンは蹴破った。

ハサン「ジジイ。バカな研究してる暇あったら、治療しろよバカ野郎！」

軍医「食中毒なんぞ、寝てりゃ治る。ヤブなおまえで十分じゃ」

ハサン「毛生え薬作る暇あって、手伝う気ゼロって事か…。良い根性だ。残り少ない毛髪を根こそぎ抜いてやろうか？それとももう全部ヅラで、毛一本も残っちゃいないか？」

軍医「ばかもん！この神聖な毛髪にたいして何たる侮辱。表へ出る！」

兵士「お二人とも、早くしないと死人が出ます。一人呼吸がないやつがいるんです」

睨みあう二人はしぶしぶ休戦して、呼吸停止した兵士の所へ。顔を真っ青にして倒れる兵士を見るハサン。

ハサン「チアノーゼか…何の毒だ？」

軍医「ふん！こんなもの」

軍医はいきなり横たわる兵士の上半身を持ち上げると、いきなり杖で背中を思い切り叩いた。

ハサン「病人に何するんだジジイ」

倒れてた兵士「…ゲホツ…」

口から転がり出る塊。急に呼吸を開始する兵士。

軍医「窒息と毒の区別もつかんとは、やっぱりヤブじゃな」

軍医嫌味を一つ残して研究室へ向かう。

ハサン「何だと！おい、おまえらなんだその目は」

周りの兵士達もハサンに疑惑の眼差し。軍医に治療してもらおうと群がる兵士。

ハサン「起き抜けで酒が足りないんだよ！酒持ってこいや！治療してやら」

その後、酒を飲みながら鬼神のごとく治療に励むハサン。要所要所でフォロー入れつつ見守る軍医。なんだかんだで医療班はいいコンビ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1761z/>

イエス！オッサン！！～オッサン・ジジイへの妄想が止まらない

2011年12月8日02時58分発行